

材木町の歴史と「よ市」のあゆみ

令和5年に50周年を迎えた「よ市」



昭和 61 年のよ市

盛岡城築城前の盛岡

縄文、弥生の時代を経て古代の東北は「陸奥」と呼ばれていた。平安時代になり、中央政権の政府軍を率いる坂上田村麻呂が盛岡周辺にまで北上。志波城などが造営され、大和朝廷の支配下となった。

その後、安倍氏が台頭し奥六郡を支配した。安倍貞任の頃、前九年の役で滅び、次に平泉を中心とした藤原氏の時代となるが、源頼朝に滅ぼされ、参戦し功をあげた甲斐の南部氏が八戸を中心とした一帯を与えられた。

戦国時代に入り、南部氏は強力な騎馬軍団により南下し、斯波、稗貫、和賀、閉伊郡を支配。当時、盛岡には福士氏の館が不来方にあった。織田信長が天下統一を目指している頃、南部氏は三戸城を拠点としていた。

南部氏、盛岡城下の始まり

豊臣秀吉の時代になり、南部氏は小田原の北条攻めに参戦、本領を守った。参陣しなかった豪族に奥州仕置きが行われ、九戸政実の乱が起こるが秀吉の援軍を得て平定。浅野長政らの薦めで居城を盛岡に移すことになり築城開始。文禄元年(1592)頃から南部氏による盛岡が始まった。

現在の内丸の辺りは湿地帯で沼が多く、街道は東の山の手沿いに北山の方へ抜けていた。城下には藩主の邸宅兼政務を司る御新丸や武家屋敷が建てられ、当時の庭の名残りが盛岡地方裁判所の石割桜。雫石、遠野、宮古、野田などへの街道も整備された。明治になり廃藩置県後、岩手県の県都となった盛岡市の人口は約2万9千人だった。

400年以上の歴史のある材木町

南部氏の城下の整備とともに材木町も発展を遂げてきた。秋田、鹿角街道の入口に御番所が置かれた。材木町は、岩手町と呼ばれたりしたが、改めて文化年間(1804~1818)に材木町とされ、久慈町は茅町になった。天明8年(1788)、久慈町は50戸、434人、材木町は52戸、465人の記録がある。

材木町の町名の由来は、対岸の木伏に春木場(貯木場)があり、材木商を中心として栄えていたからのようだ。江戸時代は鹿角街道、秋田街道(雫石街道)、沢内街道の北の玄関口として賑わい、材木町は近江商人、旧茅町では久慈、岩手町の商人が活躍。江戸後期には近江屋、恵比寿屋、宮田、豊島屋などの大店が建ち並び道幅は4間5尺。

- ・1686年、岩手山大噴火で城下にも灰が降った。
- ・1691年に森岡を盛岡とした。
- ・1719年、岩手山中腹から溶岩流(焼走り)。
- ・1756年の大飢饉、永祥院に救護小屋。
- ・1799年、長町に消防組が置かれた。

当時、盛岡は洪水や大火に何度も襲われ、藩では飢饉も多く、酷い時には餓死者が4万人を数えることもあった。北上川に架かる夕顔瀬橋は、洪水のたびに流失し、1765年(明和2年)に川の中央に中島を築いて橋桁を高くした。橋の袂には惣門と御番所があった。

明治時代に入り廃藩置県後の盛岡は、岩手県の県都として発展し、材木町も賑わった。北上川西の青山町に工兵隊と騎兵旅団が置かれ、多くの軍関係者も訪れたようだ。

大正時代には、童話作家で著名な宮沢賢治の「注文の多い料理店」が現在の光原社で出版され、材木町に来ては楽器店、本屋などに立ち寄っていた。



明治43年 宮重呉服店



昭和33年 旧茅町



完成後 平成5~7年



最近の様子



明治43年 宮重呉服店



昭和33年 旧茅町



完成後 平成5～7年



昭和の材木町

昭和になると材木町は、米屋、魚屋、雑貨から家具まで暮らしに必要な物が揃う商店街となり賑わいをみせていた。

昭和30年代に入ると内丸官公庁団地や市街地の道路整備が行われ、盛岡の人口は昭和30年の14万人から45年には、20万人に急増。45年の岩手国体に向け、さらに整備が進んだ。昭和30年頃までは自動車の登録台数は2千台だったが40年に1万4千台、60年には8万台を超えた。

昭和39年、旧材木町と茅町は合併し材木町となり商店街も合同し、41年には街の再開発を目的に商店街振興組合として盛岡で初の法人化。

昭和54年に仙台～盛岡間の東北自動車道が完成。東北新幹線も開通し高速交通時代が到来。それとともに緑屋、ダイエー、エンドーチェーンなどが盛岡に進出。モータリゼーションの進展とともに郊外型のショッピングセンター、ロードサイド店が賑わうようになり、材木町はますます人通りが少なくなった。

昭和43年に四十四田ダムの完成により、松尾鉾山の影響で盛岡を流れる北上川が茶褐色だったが清流に戻った。

北上川と舟運の話

盛岡城を造り始めた頃の北上川は、今の旭橋下流から東に曲がり、現在の大通りを流れ、菜園のサンビルの辺りから城の西側を通り下ノ橋の辺りで中津川と合流。馬場町、清水町の方へ流れていた。

1645年(正保2年)に、北上川河口の石巻港に南部藩の米蔵が建てられ、盛岡で集積された米などが黒沢尻(北上市)から、「ひらた舟」に積み替えられ石巻に運ばれた。帰りには反物、木綿、書籍、陶器など日用品が積まれてきた。

当時、材木町の裏を流れる大河北上川は重要な役割を担っていた。

材木町の衰退と「よ市」の開催や道路拡幅整備

昭和30年代の後期、岩手国体開催のため市街地の道路が整備され、国道が現在の中央通りに移った。橋場線(田沢湖線)も開通し、しだいに人は盛岡駅に集まり、駅から大通り方面へと人の流れが変わっていった。

昭和の後半になると、車で近郊のショッピングセンターなどに買い物に行くスタイルが主流になった。材木町は人通りも少なくなり、歴史のある店も離れていく中で危機感を抱いた商店街の青年部が町の活性化の柱として「よ市」を発案した。

また、昭和57年から官民共同で材木町の道路の拡張整備が始まり、平成5年にコミュニティ道路として完成。歩道は御影石で整備され、街の姿が一変し、広くなった通りでの「よ市」は、お客さんも買い物がしやすく、歩きやすくなった。

宮沢賢治の世界をテーマにしたオブジェ(座)を6カ所に設置。「いーはとーぶアベニュー・材木町」と呼ぶようになった。また、北上川の護岸には遊歩道が設置された。

環境整備の基本構想のテーマは「親しみと対話のある街」、「城下町の風情を生かした和風感のある街づくり」、「ゆっくり、楽しく買い物ができる街づくり」などが掲げられていた。

平成5年に当時のホテル東日本で開催された材木町商店街環境整備事業完成記念式典で、鈴木正一理事長が式辞で「盛岡らしさを残し親しみと対話のある街。ビルも混在するが面白みがある街並で、全国にも例のないユニークなもの。」と述べている。材木町商店街、材木町と茅町の町内会が一体となり、国、県、市や関係団体との強い連携のもとに現在の通りが完成した。

今は、高層マンションなどが建ち並ぶが、モダンでどこか懐かしさが漂う街で、「いーはとーぶアベニュー」という愛称がよく似合う。



明治43年 宮重呉服店



昭和33年 旧茅町



完成後 平成5～7年



最近の様子



明治43年 宮重呉服店



昭和33年 旧茅町



完成後 平成5～7年



よ市の歩み

商店街の青年部が材木町の活性化を目指し、昭和49年9月に始めた「よ市」は、翌年の4月から開催。道路の拡幅、歩道の整備、北上川の護岸の遊歩道設置や商店街の駐車場整備なども進めながら、「よ市」の環境も整えられてきた。「市」の形は歴史のある材木町に合うと考えた。

コンセプトは、歩行者天国で、対面販売によるお客さんとのコミュニケーション。色々なイベントも開催し、人々の笑顔がたえない街を目指した。「よ市」を始めるにあたって、

「(萬)色々と多種にわたる」

「(余)余るほど豊富」

「(良)良い品物を」

「(与)お客様に提供する」

「(喜)満足していただく」と「よ」の字に多くの願いを込めてスタート。始めの頃は材木町 430 メートルに野菜、果物、山菜、餅や団子、豆腐や花などが並び、夕飯の食材を多くの人が買いに来た。

その後、地ビール、ワイン、珈琲なども出店。しだいに若い人達も集まり、ますます賑わうようになってきた。「よ市」がしだいに活気を帯びてくると、他都市からの視察も多くなった。

今も買い物をしながら、出店者との話が楽しみで来る人も多い。市外からの出店や小中学生、高校生、専門学校や大学のイベントもあり、ますます魅力ある「市」として賑わいをみせている。

令和5年に「よ市」は50年周年を迎え、様々な記念事業が開催。立ち上げから関わってきた故宮沼氏は「準備する皆が楽しくなければ続かないし、出店者やお客さんも楽しくない。」が口癖だった。この精神は、今も受け継がれ、現実行委員会土川委員長も「材木町らしいイベントで皆が力を合わせ、皆が楽しく。」と語る。委員会の会議は、いつも賑やかで笑顔が絶えない。

材木町、よ市の受賞歴とよ市50周年

- ・建設省(当時)「手づくり郷土賞」材木町コミュニティ道路(平成6年)
- ・盛岡市都市景観賞創作賞(平成6年)
- ・岩手県中小企業大会において県知事表彰(盛岡市材木町商店街振興会)(平成7年)
- ・盛岡市都市景観総合賞受賞(平成14年)
- ・市勢振興功労者表彰(平成23年)
- ・経済産業大臣賞(平成26年)
- ・もりおか暮らし物語賞(平成27年)
- ・岩手日報文化賞(令和5年)

令和5年、「よ市」は、50周年を迎え、岩手県、盛岡市からの補助も受け、色々な記念行事を開催。シンボルキャラクターも制作。開幕の頃に咲く紅梅をもとにしている。よ市は材木町のまちづくりと共に成長し、半世紀の節目を迎えた。様々な課題を抱えているものの、未来に向かって新たな歩みを始めている。

紅梅の街路樹

材木町の街路樹に商店街の人達が紅梅を選んだ。理由は梅の花が「よ市」が始まる春に咲くからで、令和5年4月1日、50周年の開幕日には満開だった。

材木町と宮沢賢治

花巻市で生まれた宮沢賢治は、盛岡中学、盛岡高等農林と多感な時代を盛岡で過ごした。当時、現在の岩手銀行赤レンガ館や盛岡劇場などが建ち始めた時代で、近代化する街を見て大いに刺激されたことだろう。

「注文の多い料理店」が現在の光原社で出版されたことはよく知られ、賢治は、材木町で買い物もしていた。また、高等農林時代の親友保阪嘉内は茅町に下宿しており、仲間達とよく集まり、同人誌「アザリア」を発刊した。

賢治の亡き後、彼の父が法華経の本を出版するため本誓寺の住職から手ほどきを受けたそうだ。材木町は宮沢賢治ゆかりの地である。



明治43年 宮重呉服店



昭和33年 旧茅町



完成後 平成5～7年



最近の様子



明治43年 宮重呉服店



昭和33年 旧茅町



完成後 平成5～7年



材木町通信の話

昭和50年代に「材木町通信」という小冊子が季刊で発行され、編集部もあった。画家の村上善男さんも寄稿。「私の材木町史のコーナー」では村井まつさんの「当時93歳の近勘のお婆ちゃん」のインタビュー記事なども掲載。また、酒買地蔵尊の由来や「お祭に思う酒買さん！」と題して宮沼正輔さんも寄稿している。

夕顔瀬橋

1681年には、盛岡城下で本格的に「市」も始まり、長町では、2日、12日、22日の開催で賑わい始めていた。

鹿角、秋田、雫石、沢内方面からの城下への入口が夕顔瀬橋で、はじめは船で渡っていたが、北上川が増水する度に舟止めとなった。土橋を架けたが増水するたびに流失。南部利勝が藩主の頃(1765年)多額の費用をかけ、川の中ほどに中島を築き、橋桁を高くした橋を架けた。増水しても流されなかったと言われている。

昭和15年になって鉄橋が架けられ、戦車でも渡れる強固な橋になった。その時、中島は取り払われ、材木町が寄進した石灯籠は橋の袂に移設された。

全国的にも珍しい材木町の裏石組

北上川沿いの材木町裏石組に沿って遊歩道も整備され、今も「水天門」と記された門を潜って下りることができる。地元の有志が花壇を整備し、毎年、北上川や遠く岩手山を背景に季節ごとに花を咲かせている。

未だに街の多くの建物を支えている裏石組は、全国でも珍しい。各家が護岸用に設置したもので、積み方が違い独特の景観を生み出している。遊歩道を歩くと、頭上に高層建築が連なる現代的な光景の中に、石組や水天門があり、江戸時代に川と密着していた暮らしが伺える。

材木町の整備とよ市の経過

- ・昭和 39 年(1964)に材木町と茅町が合併し材木町となる。
- ・昭和 41 年(1966) 7 月 6 日、盛岡で初の「盛岡市材木町商店街振興組合」の法人化。
- ・昭和 49 年(1974)第 1 回よ市を 9 月 14 日、土曜日午後 5 時 30 分～8 時 30 分まで開催。翌年から 4 月～11 月まで開催。
- ・昭和 54 年(1979)事業費 1 億 6 千万円で駐車場建設。駐車台数 50 台。
- ・昭和 56 年(1981)道路拡幅、3 メートルのセットバックによる店舗改造、歩道整備を基本とする商店街改造事業計画策定。旭橋完成。
- ・昭和 61 年(1986)環境整備基本計画策定。
- ・平成 4 年(1992)商店街共同施設事業により、事業費 5 千 100 万円で宮沢賢治の世界観をテーマにしたオブジェを 6 カ所に配置、案内板、標識、街灯等も整備。

- ・平成 5 年(1993)コミュニティ道路が完成、10 月 7 日に開通式及び完成記念式典・祝賀会開催。全国商店街から選出の第 17 回産経商業賞受賞。新夕顔瀬橋完成。
- ・平成 6 年(1994)コミュニティ道路が建設省の「手づくり郷土賞」受賞。宮沢賢治のオブジェ等が「盛岡市都市景観賞創作賞」受賞。両賞の記念碑と 2 か所に道しるべ標識を設置。
- ・平成 7 年(1995)岩手県中小企業大会で振興組合が県知事表彰。共同駐車場に公衆トイレ設置。
- ・平成 8 年(1996)材木町商店街振興組合設立 30 周年。
- ・平成 10 年(1998)材木町裏北上川遊歩道完成。
- ・平成 11 年(1999)立体駐車場 36 台が完成。
- ・平成 14 年(2002)盛岡市都市景観総合賞受賞。
- ・平成 15 年(2003)よ市 30 周年。
- ・平成 20 年(2008)よ市開催 1000 回。
- ・平成 23 年(2011)市勢振興功労賞受彰。
- ・平成 26 年(2014)経済産業大臣賞受賞。
- ・平成 27 年(2015)もりおか暮らし物語賞受賞。
- ・平成 28 年(2016)組合設立 50 周年。
- ・令和 5 年(2023)よ市 50 周年。
- ・令和 5 年(2023)岩手日報文化賞受賞。

よ市のシンボルキャラクター

参考図書

- ・「岩手縣市町村地域史シリーズ 2 盛岡市の歴史(上)岩手県文化財愛護協会編 長岡 高人著」
- ・図説 盛岡四百年上巻・下巻(1)
郷土文化研究会

発行 盛岡市材木町商店街振興組合
盛岡市材木町よ市実行委員会